名古屋女子大学　紀要　45（家・自）65～77　1998

庄内川の上流・中流地域に住む人達の着装意識（第2報）

――男女別，年代別および居住市町別の着装意識――

原田妙子・長谷川紀子・山下知子・山岸香織・坂倉園江

Fashion Consciousness of People Inhabiting the Upper and Middle of Shônai River Basin (Ⅱ)

— A Comparison of Awareness by Sex, Age and Area —

Taeko HARADA, Noriko HASEGAWA, Tomoko YAMASHITA, Kaori YAMAGISHI and Sonoe SAKAKURA

目　　的

時代の進展に伴って被服を着るという目的や意識が変容することは，一般的に認識されているところであり，着装に関する意識調査はいろいろと行われているが，それらは母親と娘，女子大生や若い女性，高校生などある特定のグループを対象にした分析結果[1～4]がほとんどであり，子供から高齢者に至る全ての年代を取り上げた意識調査はあまり行われていない．

そこで我々は庄内川の上流・中流地域である多治見市，土岐市，瑞浪市，恵那市，山岡町の3市1町1地区について，全体の現状を明らかにし，男女別に，年代による意識の変化を探ることを目的とし，小学生から高齢者までを含めてアンケート調査を行ったので，第1報では，意識調査を行うに当たっての対象者の居住地域・性別・年齢・職業などの属性と，衣服購入方法やその場所などについての結果を報告したので，本報では衣生活および着装意識に関するアンケートの結果を報告する．

方　　法

1．調査対象者および調査時期・調査方法

調査対象者は，第1報と同様，多治見市，土岐市，瑞浪市，恵那市（武並・三郷），山岡町に在住の小学生高学年から高齢者までである．回収世帯数は1,195件で回収率90.9%，有効回答者数は男性1,578名，女性2,592名の合計4,170名で，その内訳は，第1報の通りである．

調査時期および調査方法についても第1報と同様である．なお，アンケート用紙は，小学生以上を対象にするため，大人用に加えて表現や仮名使いを改めた小学生用の2種類を作成し，保護者の方々への補助もお願いした．

2．アンケートの内容

1）社会生活について

被服を着るという意識は，各自の社会生活や意識と深い関わりを持つと考えられる．そこで，社会生活における意識を把握するために，小林氏らにより報告されている[1]被服の着装と関連が見られると推察される社会心理特性の，同調，情報欲求，自己顕示欲，好奇心の4スケールを用いた．1スケール4項目の計16項目を質問項目として設定した．

2）衣生活について

個人の意識や行動，生活様式を表現する概念として，ライフスタイルという用語がよく用いられている．多様化，個性派，ファッション化する現代人の被服行動を説明し，衣生活に関する意識を把握するために，予測できるような衣生活におけるライフスタイルの測定尺度28項目[5]を質問項目として設定した。

3）服装のしきたりについて

社会生活において，私たちがとる考え方や行動の様式の基となる社会のしきたりや約束事で共有なものとして，承認され支持されている態度や行動の標準化されたものを一般的には規範と呼んでいる．社会や集団の規律や秩序を維持する上で重要な役割を果たす服装に関しても，ふさわしいと考えられている衣服の種類や装い方があり，性や年齢，居住地の影響を受けていると考えられるため，服装の規範に関する27項目[2]を設定した．

4）服装の流行について

人間が社会生活を営んでいく上で流行は，皆と同じでありたい，仲間として受け入れられたいといった同調化の欲求や，皆から承認されたい，称賛されたいといった個性化の欲求を生じる基本的な現象で，人間のこのような欲求を最も有効かつ手軽に満たす事のできるメディアとして服装が用いられている．我々が衣生活を営むときの行動を大きく規定するのが服装の流行に対する態度であると考えられるため，20項目[5]の質問項目を設定した．

5）着装について

衣生活を営む上で，実際に衣服を購入し着用するに当たって，どのような意識が働いているかについてを具体的に把握するために，同調性と個性化，実用性と高級嗜好性，規範意識と流行・ファッション性などに関する事柄について，25項目[1]を設定した．

3．集計および分析

先に述べた5テーマの質問項目について，それぞれ「全くそうである」「だいたいそうである」「あまりそうでない」「全然そうでない」の表現を用いて，4段階尺度により回答を求めた．

集計は，それぞれの質問項目に対して得た回答の「全くそうである」から「全然そうでない」に至る4段階尺度に1～4点を与え，男女別に年代6区分および5地域のグループ別に単純集計を行い，平均値と標準偏差を算出した．さらに，隣り合う年代間で平均値の差の検定を行った．

次に，「社会生活について」は，質問項目に社会心理特性の4スケールとして既に報告されている結果を引用したので，それを除く「衣生活について」，「服装規範について」，「服装の流行について」，「着装について」の4テーマにおいては，着用意識の構造を探るために，各項目の得点を用いて因子分析（主因子法，バリマックス回転）を行った．なお，各テーマにおいて抽出した因子の累積寄与率が低いものも見られ，質問項目の検討が必要と考えられるが，今回はあえて着用意識の構造の傾向を捕らえることを目的とし，項目全ての結果を報告することにする．

結　　果

1．社会生活について

社会生活における意識を把握するために，社会心理特性についてのアンケートを行った．同調，情報欲求，自己顕示欲，好奇心の4スケールに分類し，年代6区分を男女別に，5地域を男女別に分けて，評価の平均値と標準偏差を求めた．その結果を図1に示す．なお，図中の得点は1点が肯定傾向，4点が否定傾向を表している．

同調のスケールに関する項目では，No. 13「世の中で一番大切な事は，皆が仲良く力を合わ

せてやっていく事だ」が，全ての年代で中央値2.5点より「全くそうである」の方に片寄り，男女共で最も肯定されている．No. 1「何をするにしても周囲の人とあまり違った事をしないように心がけている」についても，年代が上がるほどその傾向は強くなっており，行動の面における同調傾向は，年代が高くなるほど強くなると考えられる．また標準偏差をみると20歳代から60歳代までの女性で約0.6と比較的小さい値を示し，各年代において同じような肯定的意識を持っている．しかし，No. 9「あなたは何かしようとするとき，それをすると他の人達がどう思うかということについて考える方だ」，No. 5「あなたは自分の考えがまわりの人達と違うと，やはり自分の方がおかしいのかなあと思うことがある」などの個人の考え方に関する質問項目では，中立の意見を示している．

情報欲求のスケールに関する項目では，全ての年代で4項目とも2.5点前後に位置し，年代間の特徴だった傾向はみられない．しかし，未記入者を見ると80歳以上の男性に多く，他とは異なる結果を示した．

自己顕示欲のスケールではNo. 11「有名人と知り合いになりたいと思う」にのみ，女性では29歳以下，男性では19歳以下の若年層で肯定傾向が強く見られ，かなり年代差が大きく，一見華やかな事にあこがれ，人からうらやましがられたいという気持ちが伺える．しかし，No. 3「何人かで話をするときは，いつも中心にならなければ気がすまない」，No. 16「自分をアピールするためには，方法を考えたり努力をおしまない」など自己主張をするようなことにおいては，やや消極的である．また，4項目全てで高年齢層は消極的傾向にあり，控えめを心掛けているように思われる．

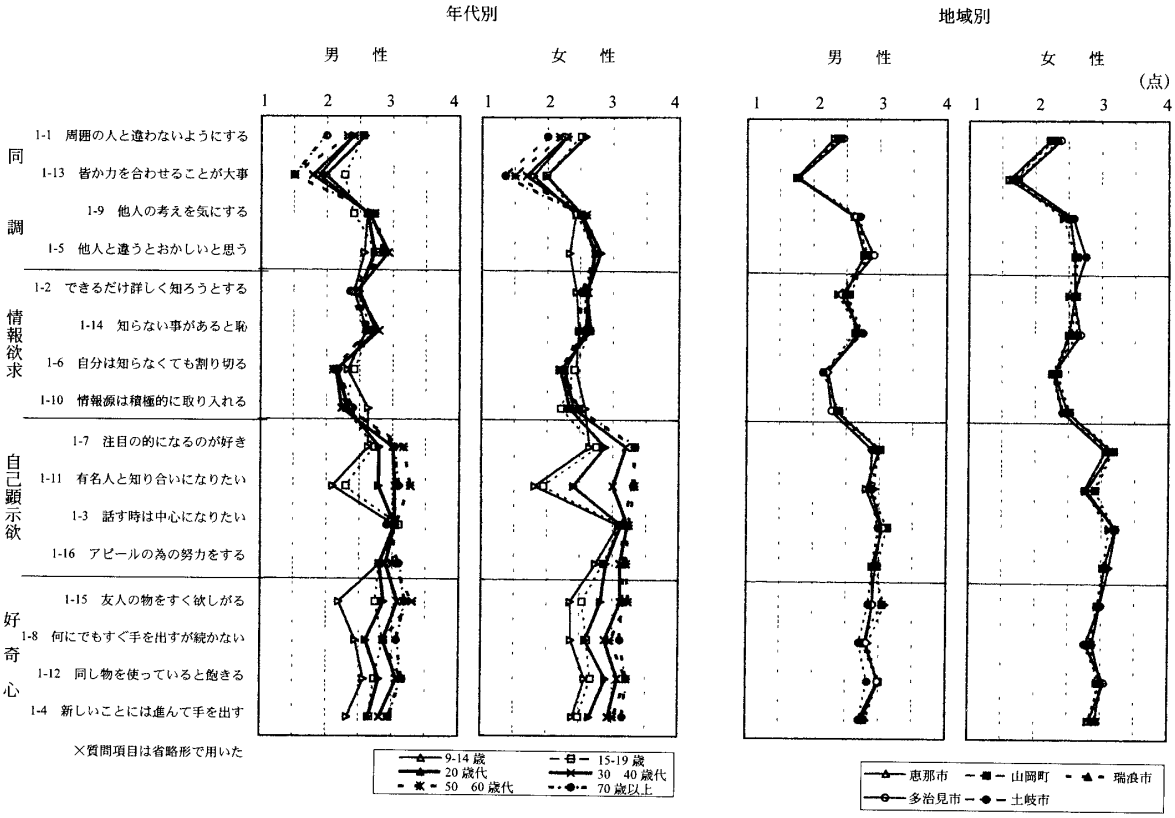

図1　社会生活について

好奇心では，9～14歳だけが肯定側にあり，中でも新しい事や物，変わった物への好奇心が高い傾向を示すが，年齢が高くなるにつれて，慎重で落ち着いた考えを持つようになっている．

なお，平均値の差の検定では，好奇心には隣り合う年代間に有為差が多く認められ，逆に情報欲求には差が認められなかった．

また，5地域別の平均値においても，差はなかった．

2．衣生活について

1）因子分析結果

多様化，個性派，ファッション化する現代人の被服行動を説明し，予測できるような衣ライフスタイルの測定尺度を用いて，衣生活に関する意識を調査し検討した．

まず，各項目の4段階尺度の評価点を用いて因子分析を行った．バリマックス回転後の負荷量を表1に示す．その結果，固有値1.0以上，因子負荷量0.4以上の因子が4因子抽出された．

第1因子は No. 23「流行を取り入れファッショナブルに着こなす方である」，No. 18「新しい着こなしやコーディネイトを工夫するのが好き」，No. 19「アクセサリーや小物を上手に使っ

表1　衣生活について（因子分析結果）

質問項目 ＼ 因子	着る事を楽しむ	場における調和を重視する	人の目を意識する	機能性を重視する
	因子1	因子2	因子3	因子4
23　ファッショナブルに着こなすほう	0 778	0 034	0 186	0 023
18　コーディネイトを工夫するのが好き	0 728	0 061	0 160	− 0 103
19　小物を使って着こなせる	0 713	0 097	0 065	− 0 071
17　センス・着こなしには自信がある	0 711	0 047	0 084	− 0 024
25　ファッションを楽しむほうである	0 654	− 0 084	0 324	− 0 039
26　たえず髪形や服装をかえる	0 628	− 0 062	0 259	0 042
16　人の着ていない服を着る	0 571	− 0 065	0 242	0 090
22　いち早く次シーズンの服にする	0 546	0 163	0 114	− 0 126
14　家でもおしゃれに気を使う	0 530	0 153	0 157	− 0 099
9　イメージチェンジ・変身が好き	0 525	0 021	0 482	− 0 007
15　組み合わせを気にする	0.489	0 137	0 269	− 0 145
7　おかしな服装はできない	0 034	0 773	0 100	− 0 162
6　不快感を与えないようにする	0 044	0 671	0 028	− 0 260
4　服装はおろそかにできない	0 152	0 663	0.093	− 0 159
3　好感が持たれる様な服装	0 177	0 580	0 203	− 0.156
5　男らしく・女らしくすべき	− 0 057	0 532	− 0 135	− 0 096
1　場所・場合にあった服装	0 197	0 467	0 077	− 0 239
2　周囲の人と同じ様な服装	− 0 033	0 422	0 078	− 0 052
11　うらやましがる服装	0 343	0 086	0 691	0 076
13　魅力的に見られる服装	0 328	0 108	0 577	0 029
10　体型をカバーして格好良くする	0 270	0.145	0 569	− 0 110
8　流行遅れの服装はできない	0 369	0 182	0 410	0 089
27　動きやすい物を着る	− 0 077	0 087	− 0 024	− 0 720
28　着心地のよい物を着る	− 0 032	0 172	0 032	− 0 710
20　温度調節しやすい物を着る	0 104	0 172	− 0 065	− 0 554
24　清潔な服装を心がけている	0 108	0 283	0 045	− 0 488
21　自分らしい服装を心がける	0 369	0 163	0 168	− 0 403
12　自由に好きな服装	0 170	− 0 182	0 313	− 0 134
固有値	5 1183	2 8836	2 1719	2 0609
寄与率（%）	18 28%	10 30%	7 76%	7 36%
累積寄与率（%）	18 28%	28 58%	36 33%	43 70%

て，着こなす事ができる」，No. 17「センスや着こなしには自信がある」などの項目で高い負荷量を示し『着る事を楽しむ因子』，第2因子はNo. 7「服装は人柄を表すからおかしな服装はできない」，No. 6「他人に不快感を与えないような服装を心がけている」，No. 4「服装はその人の信用に影響を与えるのでおろそかにできない」など服装規範を重視する項目で高い負荷量を示し『場における調和を大切にする因子』，第3因子は No. 11「仲間からほめられ，うらやましがられる服装がしたい」，No. 13「異性に魅力的に見られるような服装をしたい」など自分だけの意識ではなく『人の目を意識する因子』，第4因子は No. 27「身体によく合って動きやすい物を着る」，No. 28「できるだけ着心地や肌触りのいい物を着る」など見た目よりも実質に重点を置く『機能性重視の因子』と解釈できた．

2）平均値

次に，社会心理特性と同様，それぞれについて年代6区分を男女別に，また5地域を男女別に分けて平均値と標準偏差を求めた．質問項目を因子分析の結果をふまえて並べ替えて，図2に示した．

第1因子の『着る事を楽しむ因子』において高い負荷量を示した項目についてみると，男性は全てで2.5点以上の値を示し否定的である．また，全体的にも消極的傾向にあり，特に高齢者はあまり衣生活を楽しんでいないように思われる．しかし，その中にあって15～19歳と20歳代の若い女性は比較的おしゃれを楽しもうとしており，特にNo. 25「いろいろなタイプの服を着てみる事で，ファッションを楽しむ方である」や No. 9「服装でイメージチェンジや変身を楽しむのが好き」，No. 15「服とかばんや靴（はきもの）との組み合わせに気を使っている」などの項目で年代間にばらつきがみられ，若い女性ほど積極的な意識が見られる．

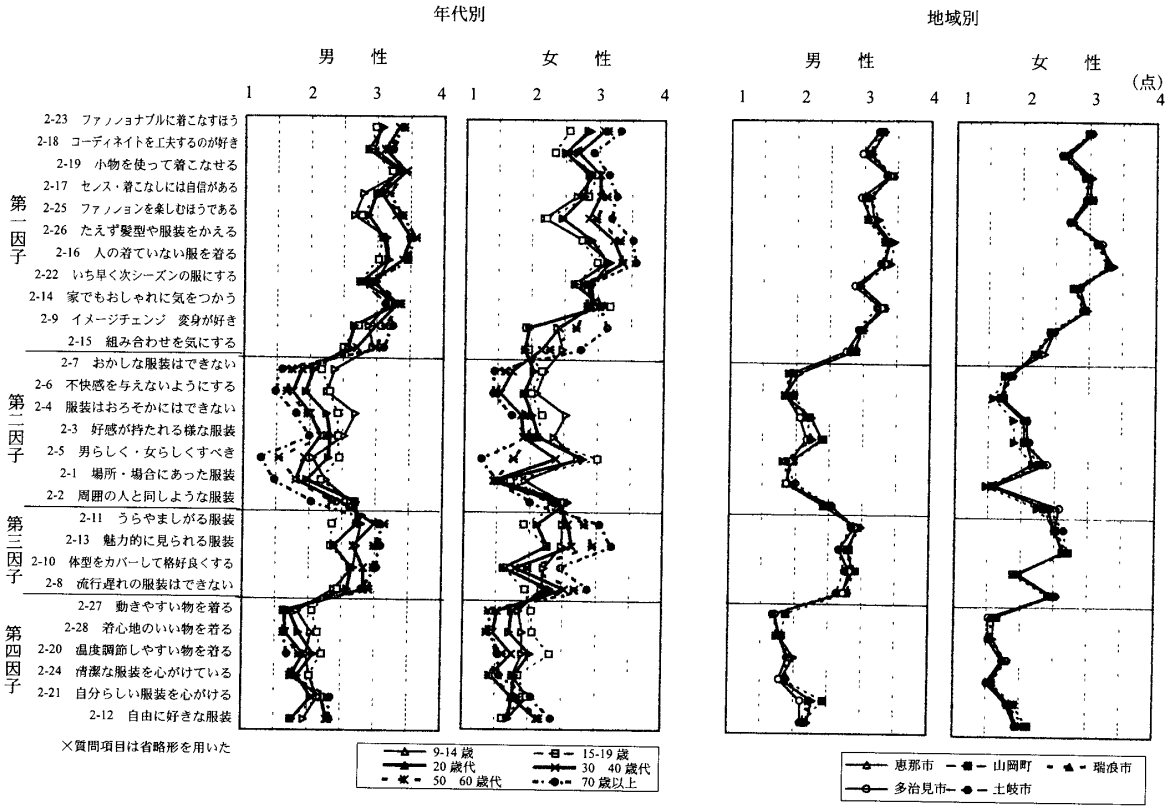

図2　衣生活について（平均値）

逆に，第2因子の『場における調和を重視する因子』では，ほとんどが肯定側にあり，年齢が高くなるほどかなり強くその通りだと答えており，おかしな服装はできないと考えられている．特に No. 7「服装は人柄を表すからおかしな服装はできない」，No. 6「他人に不快感を与えないような服装を心掛けている」，No. 4「服装はその人の信用に影響を与えるのでおろそかにできない」など，服装はその人の人間性を表すとする意味を含む項目においてでは，30歳以上が強く肯定している．しかし，No. 5「男は男らしい，女は女らしい服装をするのがよい」については，年代間にばらつきが見られ，特に女性において70歳以上では1.25点と最も肯定されており標準偏差も0.57と意見のばらつきが小さいのに対して，30歳代で中間の値を示し，29歳以下からがそうではないと回答している．これは，若い女性がユニセックス化しているファッションや流行しているパンツスタイルを敏感に取り入れていることを反映した結果と考えられる．

第3因子の『人の目を意識する因子』では，男女間に差があり，男性の平均値が2.3～3.1点の間に集中しており中間的であるのに対して，女性は服装によって自分を美しく演出したいという願望が見られ，特に高校生から40歳代までで強くその傾向が見られた．中でも No. 10「服装によって自分の体型をカバーして恰好よく見せたい」で，男性は2.6点以上とあまり関心がないのに対して，女性は2.5点以下と全く反対の意識を示し，9～14歳と70歳以上を除く全てが，かなり体型をカバーしたいと考えているようである．このことから，若い女性では，衣服を着ることは人からよく見られたい気持ちの現われであり，年齢が上がるにつれて体型のくずれを意識し，それを隠すための道具として衣服を着用していると推察できる．

第4因子の『機能性を重視する因子』の質問項目では，全ての年代で着心地を大切にしていると回答されており，特に30歳代以上の女性でその傾向がかなり強く見られる．

若い女性は衣生活を楽しむ物として捉え，人から良く見られたいと考えているのに対して，年齢が上がるに連れて服装規範の方を重視する傾向に変化している．男性では，女性よりはやや弱いものの，同様の傾向にあった．

平均値の差の検定では，中学生と高校生の間と，20歳代と30歳代の間に差が認められた項目が多く，このあたりの年代で衣生活の意識に変化が現れてくると考えられる．

5地域別の結果は，『場における調和を重視する因子』において瑞浪市でわずかに差があるものの，ほとんど同傾向を示した．

3．服装のしきたりについて

1）因子分析結果

先の衣生活において，服装規範に関する項目で高い負荷量が得られ『場における調和を重視する因子』が独立した因子として抽出された．

そこで，さらに詳しく服装規範に関する項目のアンケート調査を行った．それぞれの得点を用いて因子分析を行い，バリマックス回転後の結果を表2に示すが，固有値1.0以上，因子負荷量0.4以上の因子が6因子抽出された．

第1因子は，No. 21「園児の制服や持ち物は，男女によって色を変える」，No. 22「男女の見分けがつかないような服装をしない」，No. 20「母親は子供の入学式や卒業式には絵羽織で行く」などが高い負荷量を示し，『男女・役割による服装規範の因子』，第2因子は，No. 6「Tシャツを着てクラッシックの音楽会へはいかない」，No. 1「Tシャツを着て一流ホテルへ食事に行かない」など『公共の改まった場における服装規範の因子』，第3因子は，No. 16「職場では周囲の人とだいたい同じような服装をする」など『働く・学ぶ場における服装規範の因子』，

第4因子は，No. 3「中学生は学校の服装の規則にそった服装をする」，No. 4「高校生は学校の服装の規則にそった服装をする」の『生徒としての服装規範の因子』，第5因子は，No. 24「裸体に近い服装をしたモデルのテレビ出演を禁止する」，No. 27「ハイレッグ水着は体を見せすぎるので不適当である」の『モラルを意識した服装規範の因子』，第6因子は，No. 9「年齢に応じた服装をする」など『年齢・役職による服装規範の因子』と解釈される．つまり，漠然とはしているが暗黙のうちに支持されている規範が第1と第6因子として，儀礼的な場面などにふさわしいと受け継がれている規範は第2因子として，集団の規則によって強制される規範が第3と第4因子として出現している．第6因子までの累積寄与率は52.29％であった．

2）平均値

それぞれの平均値を図3に示したが，全ての項目において70歳以上がかなり強く服装規範に従うべきだと答えており，50・60歳代がこれに続き，若くなるに従って弱くなる傾向にある．しかし，小中学生は他の年代の中間に位置しており，しきたりをよく把握していないか，あるいは親の影響を受けているものと推察される．

表2　服装の規範について（因子分析結果）

質問項目＼因子	男女・役割による服装規範	公共の改まった場における服装規範	働く・学ぶ場における服装規範	生徒としての服装規範	モラルを意識した服装規範	年齢・役職による服装規範
	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
21　園児の制服は男女で色分け	0.674	0.080	0.231	−0.052	0.109	−0.088
22　性別が分からない服は着ない	0.625	0.101	0.348	−0.138	0.233	−0.141
20　母親は絵羽織を着て行く	0.618	0.170	0.175	−0.003	0.154	−0.070
26　年配者は地味な服装	0.602	0.038	0.166	−0.038	0.389	−0.224
25　先生は授業時に背広・ネクタイ	0.556	0.140	0.166	−0.065	0.369	−0.114
18　ボタンは男性は右・女性は左	0.452	0.253	0.337	−0.159	0.043	−0.128
17　男らしい・女らしい服装	0.404	0.164	0.496	−0.225	0.147	−0.271
6　Tシャツを着て音楽会には行かない	0.122	0.709	0.069	−0.065	0.063	−0.111
1　Tシャツを着て食事に行かない	0.035	0.652	0.084	−0.085	0.041	−0.066
8　タンクトップで講演会に行かない	0.213	0.540	0.237	−0.091	0.197	−0.241
5　既婚者は留袖・未婚者は振り袖	0.239	0.477	0.141	−0.248	0.031	−0.106
2　和服のうちあわせは右前にする	−0.086	0.451	0.104	−0.251	−0.015	−0.021
15　紬の服は～式には着ない	0.197	0.440	0.348	−0.109	0.047	−0.043
12　ジーパンで恩師宅を訪問しない	0.307	0.438	0.303	−0.008	0.139	−0.090
16　職場では周囲の人と同じ格好	0.255	0.220	0.603	−0.139	0.118	−0.177
19　職場で個性的な服装はしない	0.262	0.186	0.556	−0.110	0.145	−0.125
13　OLは地味な化粧・服装をする	0.224	0.275	0.545	−0.144	0.233	−0.117
14　頭髪は自然の色がよい	0.296	0.166	0.467	−0.187	0.274	−0.162
23　授業の時は落ち着いた服装	0.357	0.173	0.452	−0.162	0.249	−0.125
3　中学生は規則通りの服装をする	0.092	0.234	0.183	−0.874	0.095	−0.116
4　高校生は規則通りの服装をする	0.104	0.230	0.199	−0.866	0.097	−0.091
24　裸体に近いモデルの出演を禁止	0.259	0.115	0.276	−0.110	0.618	−0.091
27　ハイレッグ水着は不適当	0.426	0.042	0.198	−0.071	0.616	−0.113
9　年齢に応じた服装をする	0.265	0.241	0.253	−0.139	0.147	−0.735
10　地位・立場に応じた服装	0.226	0.320	0.287	−0.141	0.140	−0.547
7　パンツスタイルで結婚式に行かない	0.371	0.398	0.182	−0.021	0.083	−0.173
11　和服の花嫁は角隠しを付ける	0.388	0.365	0.234	−0.091	0.029	−0.104
固有値	3.6026	2.9855	2.7468	1.9539	1.5236	1.3071
寄与率（%）	13.34%	11.06%	10.17%	7.24%	5.64%	4.84%
累積寄与率（%）	13.34%	24.40%	34.57%	41.81%	47.45%	52.29%

漠然とはしているが暗黙のうちに支持されている服装規範である第1因子の項目で，60歳代以下はあまり気にしていないのに対して，70歳以上は肯定側に片寄り，同様に第6因子でも70歳以上は他より強く肯定している．儀礼的な場での服装規範である第2因子のほとんどの項目は全ての年代で男女共に守るべきだとしており，No. 2「和服の打ち合わせは右前（左見頃が上になるよう）に着付ける」で肯定の意識が強く，特に女性は高校生以上の全てで1.5点以下の値を示し，標準偏差も低いので，和服に関する規則は昔から現代まで変化せず，当然のこととして捕らえられている．

第3因子の『働く・学ぶ場における規範の因子』と第5因子の『モラルを意識した規範』においては，年代間でばらつきが見られ，50歳代以上は守るべきだとし，逆に15～29歳の若者はそれほど守る必要はないと考えている．

第4因子の中高生の服装は，全てで肯定側にあるものの，年代ごとにばらつきが見られ，小中学生を除き年代が高くなるにつれ強くなっている．

60歳代以下の人たちは，……らしいといった社会の役割で漠然といわれている服装をすることにはあまりこだわってはいないが，仕事や勉学の場や特別の場におけるマナーや，和服などの昔からの規則に関しては，守るべきだとしている．また，一般的にいわれているように，若者は性や年齢，しきたりなどにこだわらず，自由にそれぞれ自分の好きな服装を楽しむ傾向が強く，高齢者は古いしきたりを重視し世間体を気にする傾向が伺える．

平均値の差の検定でも，隣り合う年代間に差が認められる項目はかなり多く，年齢と共に服装規範に対する意識は変化している．

5地域の結果では，No. 16「職場では周囲の人とだいたい同じような恰好をする」，No3，4

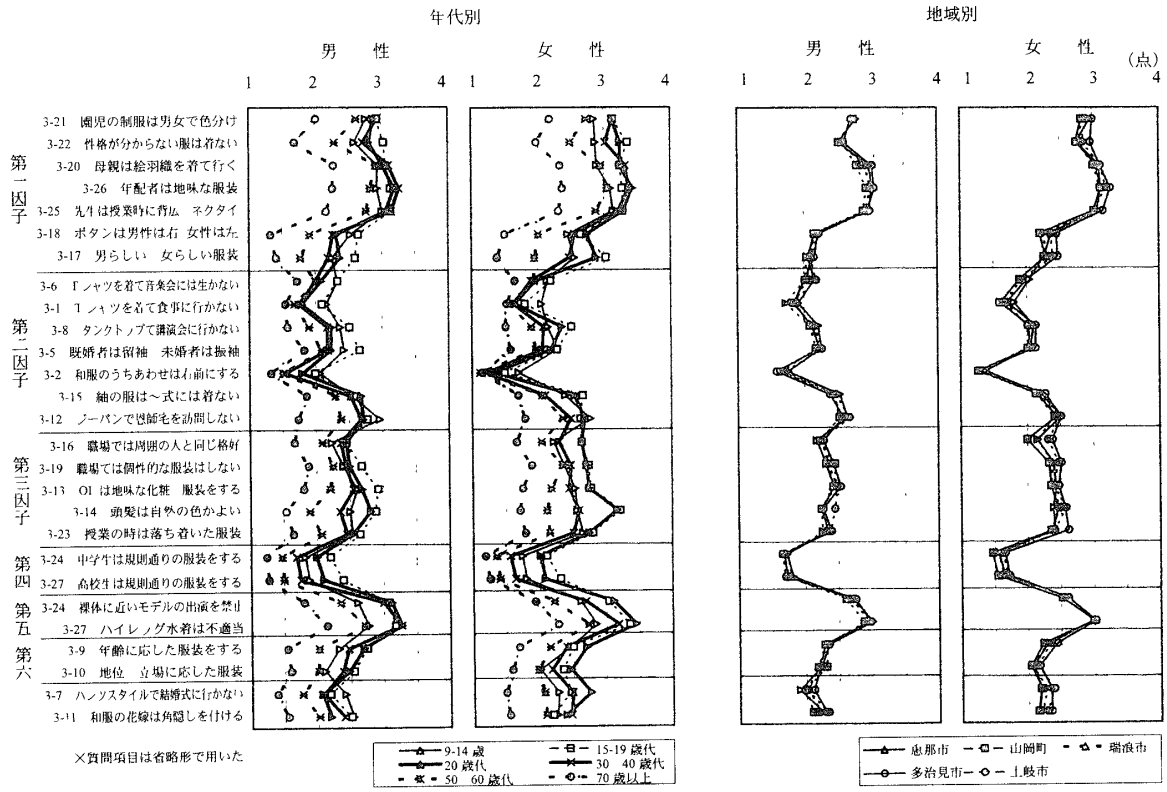

図3　服装の規範について（平均値）

「中高生は学校の規則にそった服装をする」において，山岡町の女性に極僅かな差が見られたのみで，やはりほとんど差は認められない．

4．服装の流行について

1）因子分析結果

皆と同じでありたい，仲間として受け入れられたいといった同調化の欲求や，皆から承認されたい，称賛されたいといった個性化の欲求を生じ，我々が衣生活を営むときの行動を大きく規定する服装の流行に対する態度について，アンケートの得点を用いて因子分析を行った．バリマックス回転後，5因子が抽出され，その結果を表3に示す．

第1因子では，No. 5「流行に左右されないで，自分の好きな物を着ればよい」，No. 2「流行を取り入れたい人は取り入れればいいし，取り入れないからといって時代遅れになると思う必要はない」などが高い負荷量を示し，流行だからといって皆がその服装をする必要がないと考えており『流行を批判的に考える因子』，第2因子は，No. 16「流行の服は華美になりすぎるので好ましくない」，No. 11「流行は若者たちを調子にのらせ，社会の雰囲気を乱すので好ましくない」などで高い負荷量を示し，第1因子以上に流行を悪いものとする『流行に対して否定的な因子』，第3因子は，No. 8「流行の衣服を着ることは，皆と同じなので着ていて安心感がある」，No. 12「流行を取入れておけば，おしゃれに自信がなくても一応安心できる」などで高く，流行の服装のファッショナブルな面を取り上げるよりも，皆と同じでいる安心感を重視した『流行に対して肯定的な因子』，第4因子は，No. 17「流行によって適当に自由を楽しむこと

表3　服装の流行について（因子分析結果）

質問項目 ＼ 因子		流行を批判的に考える	流行に対し否定的	流行に対し肯定的	流行を楽しむ	流行を認める
		因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
5	自分の好きな物を着ればよい	0.706	0.031	−0.056	0.013	0.021
2	流行は気にする必要はない	0.592	0.004	−0.049	0.076	0.121
20	流行に左右されることはない	0.591	0.110	−0.077	0.089	0.426
19	流行は選択すればよい	0.569	0.035	0.029	0.131	0.519
9	流行よりもいい物を長く着る	0.529	0.206	−0.098	−0.016	−0.012
7	流行とおしゃれは別	0.510	0.146	−0.096	0.025	0.017
16	流行の服は華美になりすぎ	−0.036	0.743	0.106	−0.116	−0.015
11	流行は社会を乱す	0.018	0.679	0.088	−0.115	−0.093
15	流行でも奇抜な格好はだめ	0.152	0.586	0.062	0.021	0.159
3	流行は無駄であり合理的でない	0.120	0.494	−0.004	−0.167	−0.028
13	流行ばかりで好きな物がない	0.207	0.467	0.051	0.077	−0.005
1	流行に乗るのは個性無視	0.200	0.405	0.024	0.006	−0.013
8	流行は皆と一緒で安心感がある	−0.121	0.100	0.800	0.051	0.018
12	流行は一応安心できる	−0.102	0.105	0.648	0.213	0.001
6	流行は選択する上での基準	0.069	0.023	0.562	0.285	0.022
4	流行の物を着ているほうがよい	−0.175	0.131	0.538	0.046	0.023
10	流行は生活を豊かにする	−0.012	−0.052	0.484	0.418	−0.043
17	流行によって気分転換	0.102	−0.133	0.250	0.666	0.147
14	流行は楽しむための物	0.056	−0.014	0.280	0.547	0.048
18	流行を無視することもない	0.363	−0.049	0.096	0.332	0.421
固有値		2.3886	2.1220	2.1059	1.2532	0.7062
寄与率（%）		11.94%	10.61%	10.53%	6.27%	3.53%
累積寄与率（%）		11.94%	22.55%	33.08%	39.35%	42.88%

ができ，気分転換になってよい」，No. 14「流行は自分をいろいろ変えて楽しむためのものである」と流行を肯定しているが，第3因子とは異なり，流行を楽しむものとして捕らえ自分自身にとってよいものとする項目の負荷量が高く，『流行を楽しむ因子』，第5因子はNo. 19「流行は自分に似合えば取入れればいいし，似合わなければ取入れなくてもいい」，No. 18「流行に振り回されることもないが，全く無視することもない」と流行の短所と長所の両方を併せて考えている『流行を認める因子』と解釈される．

2）平均値

年代別，地域別の男女の平均値を図4に示した．

年代別の平均値を見ると，第1因子の『流行を批判的に考える因子』では，男女共全ての年代で，流行には批判的であまり影響されないとする傾向にあり，特に20歳代以上の全てが1.5点あたりに集中し，流行だからと言って皆が同じ服装をする必要はないと考えている．

さらに強く流行を否定している第2因子では，70歳以上がそうだと答えているが，30･40歳代以下で否定傾向にあり，特に若者はNo. 16「流行の服は華美になりすぎるので好ましくない」やNo. 11「流行は若者たちを調子にのらせ，社会の雰囲気を乱すので好ましくない」などの流行そのものが悪いとしている項目につては，そうではないと回答している．これは，先の社会心理特性における自己顕示欲の結果を反映するとみられる．

逆に，流行は皆と同じでいる安心感があるとした第3因子では，2.5 ～ 3点に平均点が集中し，やや否定傾向にあるが，No. 6「流行は衣服を選択する上で，安心できる一つの基準となる」では，女性に肯定されており，同調化の欲求の程度を示す項目と考えられる．

流行を楽しむ第4因子でも，女性に肯定傾向が見られ，流行を自分自身にとってよいものとして捕らえている．

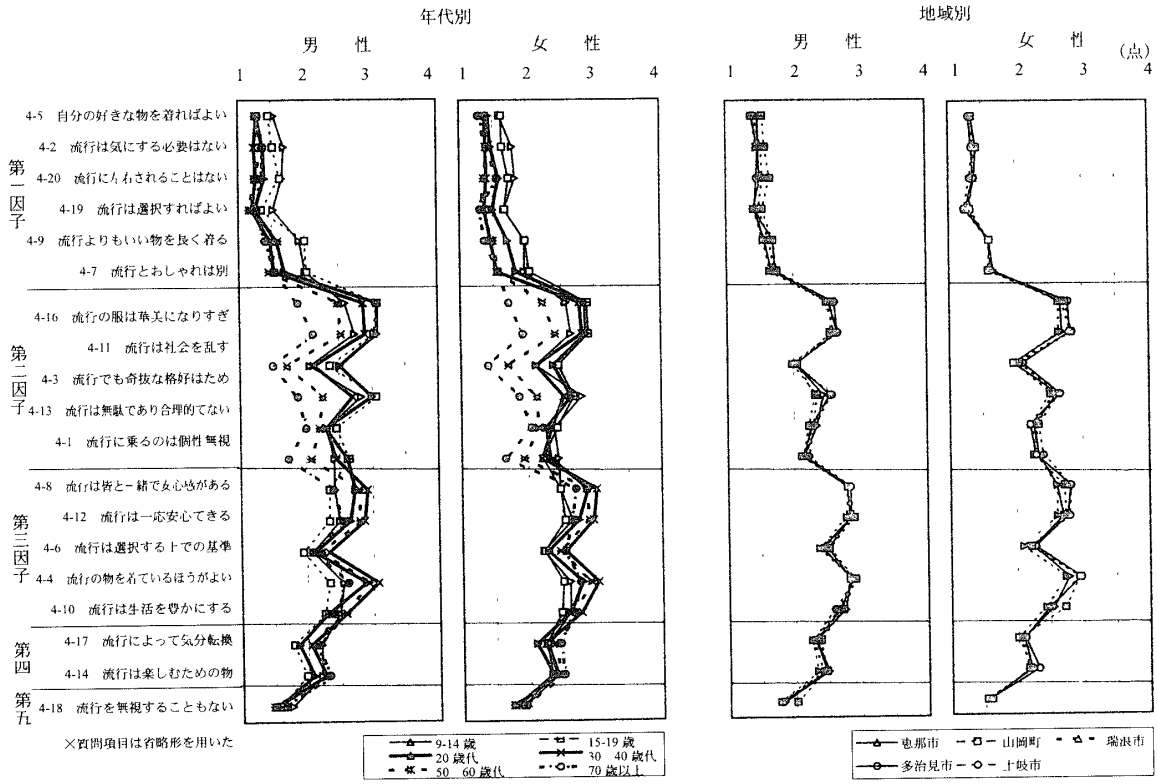

図4　服装の流行について（平均値）

流行に対する意識は，全体的にやや否定的であり，50・60歳代，さらに70歳以上はかなりその傾向が強くなっているが，第5因子にあるように，流行を無視する事もないと答えている．また，服装規範でも見られたように，小中学生はその親の影響をかなり受けていると見られる．

5地域の結果では，山岡町と瑞浪市とでわずかに違う項目があったが，ほとんど一致しているといえる．

5．着装について

1）因子分析結果

衣生活を営む上で，先に述べたようにいろいろな意識が反映されていることが明らかになった．そこで，実際に衣服を購入し着用するに当たって，具体的にどのような意識が働いているかについて，25項目のアンケートを行った．得点を用いて行った因子分析結果を表4に示す．バリマックス回転後，因子負荷量0.44以上で解釈可能な6因子を抽出した．

第1因子は，No. 7「ファッション情報に強い関心を持っている」，No. 3「ファッション関係の高級専門店や高級品売り場をよく見て歩く」，No. 21「周囲に先がけて流行の服を着たい」などが高い負荷量を示し『ファッション志向の因子』，第2因子は，No. 15「流行にとらわれずに，長く着用できそうな服を購入するように心がけている」，No. 4「服を買うとき，素材表示

表4　着装について（因子分析結果）

質問項目＼因子	ファッション志向	素材意識	積極的心理的安定	消極的心理的安定	嗜好優先	価格優先
	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
7　ファッション情報に強い関心がある	0.673	−0.065	0.257	−0.051	0.011	0.116
3　ファッション関係の売り場をよく見る	0.659	0.160	0.105	−0.083	−0.056	−0.090
21　先駆けて流行の服を着たい	0.603	−0.146	0.230	0.230	0.140	0.114
12　有名ブランドの服をよく買う	0.599	0.006	0.030	0.091	0.042	−0.317
9　アクセサリーは大胆な物を選ぶ	0.598	−0.022	0.010	0.115	0.096	−0.033
17　自分を目立たせる服装が好き	0.428	−0.053	0.139	0.132	0.206	0.004
11　異性を意識して選ぶ	0.419	−0.086	0.072	0.292	0.192	−0.017
15　流行にとらわれない	−0.163	0.600	−0.026	−0.048	0.120	−0.103
4　購入時に表示を必ず見て買う	0.274	0.559	−0.020	−0.110	−0.294	0.066
2　外観より着心地を重視する	−0.106	0.522	−0.101	0.001	0.074	−0.013
10　形・色より生地の風合い重視	0.066	0.499	0.119	−0.064	−0.018	−0.055
24　流行より個性を大切にする	−0.014	0.449	0.225	−0.147	0.205	−0.047
20　好きな服を着ると気分がよい	0.237	0.141	0.664	0.076	0.074	0.095
13　服装で気分を左右される	0.379	0.132	0.479	0.138	0.036	−0.025
25　周囲と違うと落ち着かない	0.219	0.033	0.115	0.576	0.015	0.085
6　素材より色・形を優先する	0.142	−0.175	0.212	0.088	0.445	0.081
14　時・場所・目的を気にしない	0.078	0.105	−0.078	0.006	0.416	0.042
5　年齢を気にせず自由に着る	0.215	0.118	0.114	−0.314	0.402	0.013
18　手ごろな値段の服を多く欲しい	−0.139	0.130	0.069	0.092	0.286	0.442
1　何を着ていくか友人と相談する	0.299	−0.007	0.101	0.241	0.023	0.199
23　服はシーズン終わりに買う	0.140	0.352	0.055	0.118	0.036	0.167
19　しわが付きやすい服は着ない	0.045	0.323	0.116	0.203	−0.007	0.149
16　薄物の服は恥ずかしい	−0.105	0.386	0.131	0.162	−0.106	0.094
22　服装から人を判断してしまう	0.242	0.125	0.294	0.247	−0.016	−0.041
8　気に入れば高くても買う	0.376	0.203	0.223	−0.116	0.086	−0.294
固有値	3.1051	2.0013	1.1630	0.9125	0.9032	0.5645
寄与率（%）	12.42%	8.01%	4.65%	3.65%	3.61%	2.26%
累積寄与率（%）	12.42%	20.43%	25.08%	28.73%	32.34%	34.60%

や洗濯表示を必ず見て買う」など外観より着心地，色形より生地，流行より個性といった素材や機能性を重視する項目の負荷量が高く『素材意識の因子』，第3因子は，No. 20「お気に入りの衣服を着ると気分が高まる」，No. 13「服装によって気分が左右されることが多い」など，服装によって気持ちを盛り上げる『積極的心理的安定の因子』，第4因子は No. 25「周囲の人と同じような服装をしていないと，何となく落ち着かない」で，第3因子と同様心理面に関するものではあるが，周りと同じことで安心を得ようとする『消極的心理的安定の因子』、第5因子はNo. 6「服は素材より形や色を優先して購入する」，No. 14「服装は，時・場所・目的に合わなくても，今は多様化の時代なので気にしない」など服装は各個人の自由だとする『嗜好優先の因子』，第6は No. 18「値段の高い服より，手頃な値段の服を数多くほしい」の『価格優先の因子』と解釈できる．

2）平均値

それぞれの平均値を図5に示した．

まず，第1因子の『ファッション志向の因子』における項目の平均値は，男性では全てが，女性では15～29歳以外の全てが，2.8点以上を示し，ファッション嗜好は弱く，先の衣生活についてでも述べたように，年齢が上がるにしたがってファッションを楽しむことがなくなるようであり，15～29歳で，わずかにファッション情報に関心があり，先がけて流行の服を購入して着たいと考えているようである．

第2因子の『素材意識の因子』では，男女共似た傾向を示し，外観より素材や着心地，流行より個性を大切にする傾向が見られる．年代が上がるほど素材を重視しているが，女性では30～60歳代が70歳以上の値を超えて重視していることに注目できる．また，小中学生では男性は親の年代近い値を示しているが，女性は高校生以上と類似しており，女子の方が着装意識の

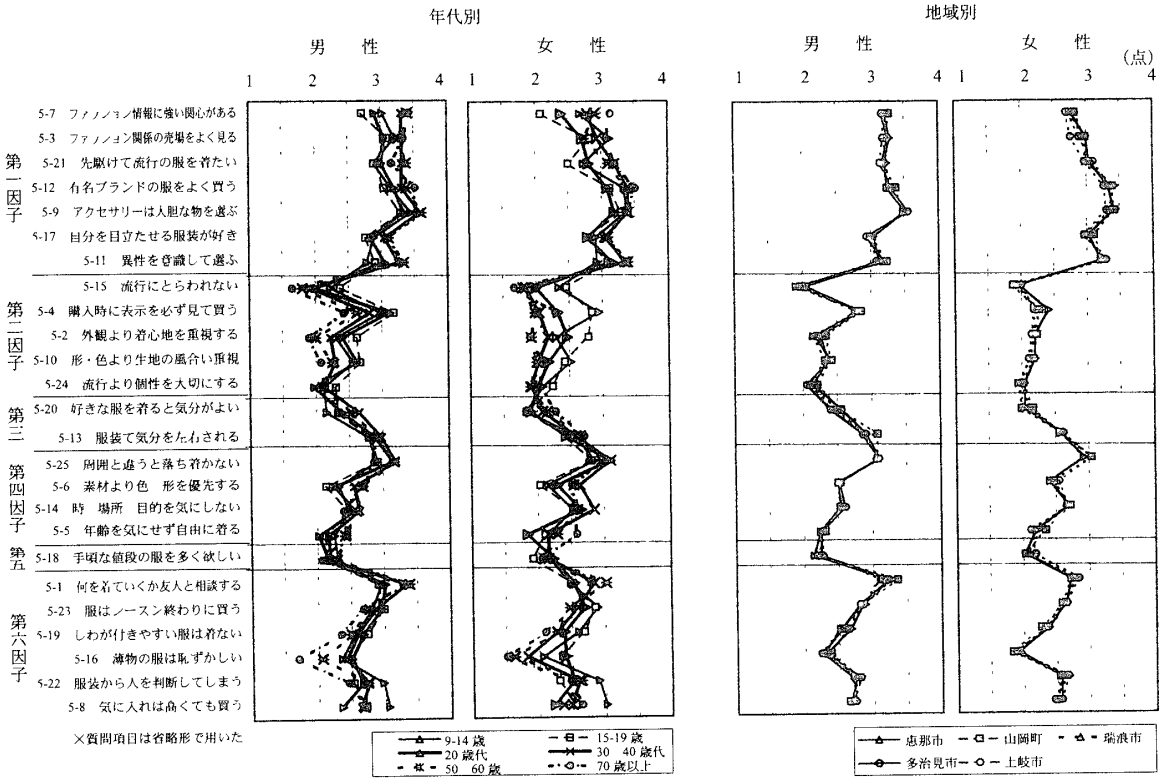

図5　着装について（平均値）

発達が早い兆しかと思われる．アレルギーなどで注目されている素材についての表示を必ず見て買うと答えているのは，30～60歳代の女性であった．

第2因子と逆の意味を持つ機能性より色形を重視する第5因子では，年代の順位が入れ替わってはいるものの中間的な値を示し，わずかに若い年代で，ファッション性を重視し，年齢には関係ない服装をするという意識か見られた．

平均値の差の検定では，衣生活についての結果と類似しており，中学生と高校生の間，高校生・短大生と20歳代の間，20歳代と30歳代の間に差のある項目が多く見られ，実際に衣服を着装する時の意識が，このあたりの年代で徐々に変化し，確立されていく過程の現われと考えられる．

5地域の差は，ここでも見られなかった．

要　　約

庄内川の上流・中流地域について，衣生活に関する意識を探るためにアンケート調査を行った結果，衣生活を楽しみ，ファッションに興味を持っていたのが，15～19歳であり，次いで20歳代であった．高校生あたりから衣生活に興味を持ち始め，20歳代で周囲の影響を受けながらライフスタイルを形成していくと考えられる．その後30歳から年齢を重ねるにつれて，周囲と同じ考え方が確立され，高齢者は衣生活を楽しむ対象とは見ていないようである．また，小学生は新しい物に対する好奇心は旺盛であるが，衣生活面では母親の影響が大きいようである．さらに，衣服の着用により体型をカバーしたいとほとんどの女性が考えているが，若い女性は人から良く見られたいという自己顕示欲の現われであるのに対して，年齢が上がるにつれて，体型のくずれを隠すための道具として衣服を着用していると思われる．若い女性は，…らしいといった一般的な通念として考えられている規範を支持していないが，公共の場での規範は守るべきだとしており，衣生活によって生活を豊かにしようとする姿勢が見られた．服装の着装意識において，性や年代による差は大きいが，交通の発達や情報の広域化などにより，地域の差はほとんど見られなかった．

最後に，アンケートの配布・回収に多大なるご協力を戴きました連合婦人会，公民館，地方事務所，自治会などの皆様に感謝すると共に，回答戴きました調査対象者の皆様に厚くお礼を申し上げます．

参 考 文 献

1) 小菅啓子，井上和子，富田弘美，杉山真理，小林茂雄：東京及びその近郊における学生・OL・母親間の下着と上着の社会心理的着用意識，繊消誌，Vol. 34，12，640～651（1993）
2) 藤原康晴，藤田公子，山本昌子：女子学生および中年女性の服装に関する規範意識と独自性欲求との関係，家政誌，Vol. 40，2，137～143（1989）
3) 中川早苗，松浦悠紀子，大喜多佐代子，万江八重子：高校生の服装と被服教育に対する意識に関する1考察（第一報）高校生の服装に対する態度について，家政誌，Vol. 39，8，861～869(1988)
4) 中川早苗，矢野いずみ:男子大学生のライフスタイルと被服行動に関する一考察，繊消誌，Vol. 29，6，237～247（1988）
5) 日本繊維機会学会被服心理学研究分科会：被服心理学演習ノート，15～24・25～32・81～90（1994）